

— 大切なお知らせ —

治療の限界と考慮すべきこと。

下記の項目は矯正歯科治療をなされる方にお知らせするものです。素晴らしい微笑と美しい歯並びを思い出すと同時に身体の他の治療と同様矯正歯科治療も、限界と危険があることを承知しておいて下さい。治療を中止しなければならぬことは、ほとんどありませんが、治療をするか否かを決める際、考慮した方がよろしいです。すべての起こりうる状況を記載することは不可能ですので、下記は不完全なリストとお考え下さい。

治療の遅延又は失敗

約束した日に来院しない（これが一番多い）

こわれた器具（すぐになおしに来ない）

器械を使用しない（どうしようもない）

顔面の成長不足 顔面の過成長（主に下顎、受け口の人に時々あります）

歯肉の退縮 骨ゆ着（めったにありません。X-ray写真でも1/3は判りません）

カリエス（虫歯）又は歯肉の病気

これらの問題は十分に歯磨きをしないときにおこります。また食事上の糖分の量と使用頻度に注意が必要です。

機械をつけた日に歯が痛む又はうずく

これは歯が動きだすための良い徴候です。1日程度（3日ぐらいのこともあるし、痛まない人も多い）具合の悪いことがあります。これはスルメなどが歯の間にはさまったのと同じことであり心配するにはあたりません。神経質なお子さんはさわぐことがあります。一番困るのは母親が神経質で子供を甘やかす場合です。通常お薬をさしあげます。器械セット後3日の後、それでも非常に痛い場合は御来院下さい。

後期成長の変化

これは最も慎重な治療計画を台無しにします。異常な割合いで成長する人（顎）は治療を継続しえないこともあります。成長が不釣り合いになるならば、上下顎の関係は容易ならぬ影響を及ぼされ、初めの治療目的は満されません。（めったにありませんが）

器械撤去後、初めの状態に戻る（後もどり）

多くの場合約、1割は後戻りの傾向があります。特に元の状態が大変悪い場合このことがおこります。我々は最高の基準で治療を行いその時果を慎重に維持させます。維持させられない時はある程度、元に戻ることを予測しなければなりません。維持期間中（保定中）の慎重な協力は後もどりを最小限にくだめです。その程度及び協力度によっても歯の内側を金属で固定することもおこないます。

顎関節の疼痛

ある人は咬み合わせの時に生ずるちょっとした不一致にさえ大変敏感です。こういう人は下顎のつけ根において雑音や痛みをこうむることがあります。これは一度も矯正治療を受けない人にもおこります。もし問題があると思われるときは御相談下さい。痛みを取りさるために矯正治療をすることもよくあります。

活力を失なう

それは治療前に歯をぶつけていたり、損傷していた時、矯正治療中に歯の神経がだめになることがあります。このようなことは患者本人、親、歯科医師が知らないうちにおこります。このような損傷を歯科医師は発見出来ません。このような時は根管（根の）治療をおこないます。歯を抜く事は普通ありません。

器械によるケガ

ヘッドギヤーの取り扱いには慎重に、弾力があるうちに歯から引張り頼られた器械は顔や目にパチンとはねかえることがあります。ていねいに使用すること。針金が壊れて頬、歯肉にささることがある。危険なスポーツはやめましょう。